

春の図書館を詠む

頼珍漢・素人俳壇

これらの俳句は本学園の学生・教職員の方々から投句いただいたものです。

水温む
嬉しい便り
桜色
遊亀

春暖に
体ほぐれて
読書慾
多作一景

はじまりは
図書をめぐりて
花おぼろ
日向雅

図書館の
午後は閑かや
春の雪
浮駒

初授業
ノートもほほも
桜色
アメリ

さくら背に
本読む時
何想う
びっぴ

「元気です」
桜の花を
同封し
ゆっきー

春の山
白黒霞む
推理本
多聞

この想い
桜の便箋に
つづります
雫

春風が
ページを先へ
走らせる
藤緑風

目に入った
新着絵本に
ツバメの巣
者義

「元気です」
桜の花を
同封し
ゆっきー

春の山
白黒霞む
推理本
多聞

この想い
桜の便箋に
つづります
雫

春学期
まなびの友は
参考書
としよいら

うららかに
『花咲爺』が
踊る庭
欽作

たんぽぽの
綿毛のように
図書館へ
桜子

手紙来て
私の未来
サクラサク
もへ

新学期
花道に舞う
部のチラシ
多誤作

桜舞う
文字散りばめた
本の上
すこっつい